

令和5年度（2023年度）

業務概要



センター全景

長崎県立子ども医療福祉センター

〒854-0071 諫早市永昌東町24-3

TEL 0957-22-1300

FAX 0957-23-2614

基 本 理 念

○こどもの心とからだの発達の支援と治療を行います。

家族への子育て相談と支援を行います。

保健、医療、福祉、教育などの関係機関と連携し、
地域療育活動を支援します。

はじめに

当センターは、昭和 29 年に県立整肢療育園として開設され、肢体不自由児および重症心身障害児を主体とした療育・訓練を基本とした医療および福祉を行う施設としてスタートしました。平成 13 年には「こどもの心と体の発達支援」を基本理念とした包括的療育拠点施設「こども医療福祉センター」としてリニューアルし、あらたに小児科を診療科目に加え、神経発達症、心身症、不登校、神経筋疾患、てんかんなど多岐にわたる小児障害児の診療が可能な施設となりました。県および県民の皆様の支えにより、平成 26 年には創立 60 周年を迎え、現在に至ります。

2020 年 4 月に新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する緊急事態宣言が発出されてから 3 年が経過し、私たちは、これまでに 8 回の感染拡大を経験しました。コロナ禍において、経済活動の変化や国民生活の行動変化など、日々の暮らしの中に、少なからずの影響がありました。

国は、ワクチンの普及による重症化の割合が減ったことなどにより、5 月 8 日から、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを、季節性インフルエンザなどと同じ「5 類」に移行させました。今後、感染防止対策は、個人の判断に委ねられ、幅広い医療機関での患者の受け入れを目指すなど、コロナ対策は大きな節目を迎えています。

5 月 13 日と 14 日の 2 日間、長崎市の出島メッセ長崎において、本県では初となる G7 長崎保健大臣会合が開催されました。会合では、G7 主要 7 개국及び EU の保健担当大臣のほか、インドやインドネシア、ベトナムといった招待国の担当大臣の方々が参加され、国際社会が直面する様々な保健課題について精力的な議論が行われました。また、最終日には、公平に医療を受けられる体制整備に向けた支援などを盛り込んだ「G7 長崎保健大臣宣言」が採択されました。

当センターでは、昨年度から市町の実施する乳幼児健診事業への支援や県北地域での発達外来設置への協力などの新たな取組を始めました。今後とも、関係機関と連携しながら子どもたちに障害があっても、地域でより良い生活をおくれる環境を提供できるよう取り組んでまいります。

令和 5 年（2023 年）7 月

長崎県立こども医療福祉センター
所長 松尾 光弘

目 次

センターの概要

1	センターの業務と特色	1
2	施設概況等	1
3	施設基準等	2
4	沿 革	2
5	組 織	3
6	職種別職員数	3

入所・入院部門

1	実 績	4
2	担当スタッフ	4
3	業務内容	4
4	主な業務の特色	5
5	日課・年間行事	8

外来部門

1	実 績	10
2	担当スタッフ	10
3	業務内容	10
4	外来診療体制	10
5	主な業務の特色	11

地域連携	17
------	----

発達障害児（者）支援	21
------------	----

栄養関係業務	23
--------	----

薬局・検査・X線撮影

1	薬局業務	27
2	臨床検査業務	29
3	X線撮影業務	30

	心理業務	31
--	------	----

研究・実習等

1	研究発表・講演・著作等	33
2	ボランティア活動	40
3	実習受入	41

	建物概要	42
--	------	----

資料編

(1)	入院患者数の推移	43
(2)	外来患者数の推移	43
(3)	入所・入院患者の病類別人員	44
(4)	入所・入院患者の在所期間別	44
(5)	入所・入院患者の年齢別	44
(6)	外来患者の病類別延人員	45
(7)	外来患者の出身地別延人員	45
(8)	手術実績	46
(9)	訓練指導件数	47
(10)	入所児の要介護の状況	47
(11)	障害児等療育支援事業(実績)	48
(12)	医療等従事者実習(実績)	48
(13)	令和3年度障害児(者)巡回療育相談実施状況	49

センターの概要

1 センターの業務と特色

当センターは、長崎県立児童福祉施設条例に基づく障害児入所施設（医療型）であるとともに、医療法による病院です。

従来、施設の利用は児童福祉法による入所措置（行政による決定）を原則としていましたが、平成18年10月の障害者自立支援法（障害者総合支援法）の施行に伴い契約入所が原則となりました。

当センターの契約入所児数は年々減少し、それに代わって医療保険による入院あるいは外来の治療・訓練が主となってきています。また、肢体不自由児施設として整形外科を中心としてきましたが、平成13年度、小児科各科の増設により小児医療の充実を図り、すべての障害児を対象とした県下の拠点的な施設としての役割を担っています。

これに合わせ地域療育部門を設置し、当センターのスタッフを保育所、幼稚園、学校、児童発達支援事業所等へ派遣し、地域の療育活動及び体制整備への支援を行ってきました。平成23年度からは地域連携室を設置し、同室を中心に地域支援を強化しています。

その他、早期治療の一つとして1週間、2週間コースの親子入院、就学前の発達障害児を対象とした集団親子入院、障害のある子どもを持つ保護者に対する子育て支援などの療育支援活動を行っています。なお、入院・入所中の児童は、隣接する長崎県立諫早東特別支援学校で義務教育を受けることができます。

2 施設概況等

項 目	内 容
所 在 地	〒854-0071 長崎県諫早市永昌東町 24 番 3 号
病 床 数	60 床（一般 50 床、親子棟 10 床）
診 療 科 目	【常設診療科】 整形外科、小児科(小児発達・小児神経・小児心療) 精神科、リハビリテーション科 【非常設診療科】 歯科、泌尿器科、耳鼻咽喉科
敷 地 面 積	18,646 m ²
建 築 面 積	7,569 m ² （1 階：4,155 m ² 、2 階：3,137 m ² 、3 階：277 m ² ）
構 造	鉄筋コンクリート造り 3 階建て
駐 車 場	175 台
交 通 機 関	J R 諫早駅より徒歩約 7 分 県営・島鉄バス(諫早駅前ターミナル)停より徒歩約 6 分

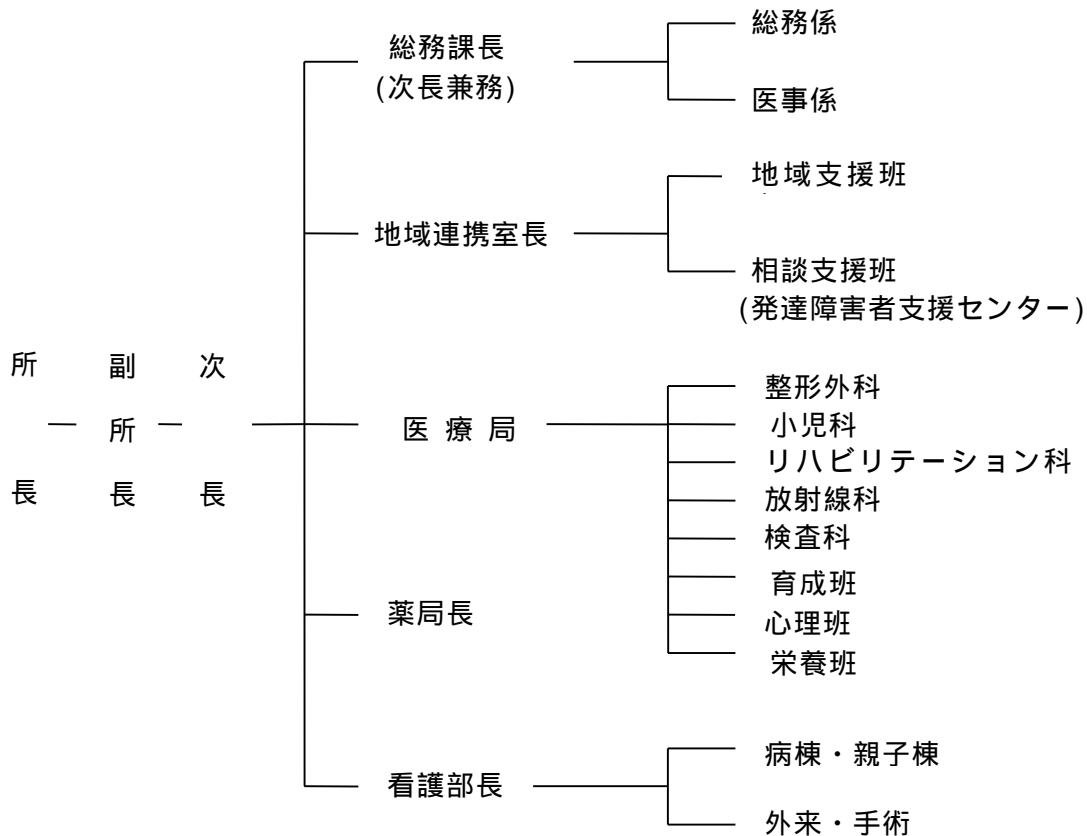
3 施設基準等（令5年4月1日現在）

- | | |
|--|---|
| <p>15歳未満</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児入院医療管理料3 ・プレイルーム加算（娯楽室） <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症者等療養環境特別加算 ・療養環境加算 ・小児運動器疾患指導管理料 ・入院時食事療養（ ） ・脳血管疾患等リハビリテーション料（ ） ・運動器リハビリテーション料（ ） | <p>15歳以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域一般入院料2 ・障害児(者)リハビリテーション料 ・CT撮影 ・初診料（歯科）の注1に掲げる基準 |
|--|---|

4 沿革

昭和29年12月1日	長崎県立整肢療育園開設(50床)、21日第1回入園式
昭和34年5月1日	病床数50床増床により100床
昭和37年4月1日	病床60床(うち母子棟10床)増床により160床
昭和48年3月30日	本館、第1、第2病棟改築
昭和57年4月1日	島原通園部(島原温泉病院内)を設置
昭和59年11月7日	病床数160床を110床に変更
平成13年4月1日	「長崎県立こども医療福祉センター」に名称変更 病床数を60床(一般50床、親子棟10床)に変更
平成13年9月30日	島原通園部廃止
平成17年7月20日	新センター建物完成
平成17年8月22日	新センター業務開始
平成23年4月1日	地域連携室創設

5 組 織



6 職種別職員数 (令和5年5月1日現在)

職種	医師	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護師	社会福祉士	社福(心理)	保健師	保育士	管理栄養士	調理員	一般事務	相談支援等	運転士	庁舎管理	計
人員	10	1	1	1	(1) 6	7	5	(2) 34	5	(2) 4	1	(2) 12	(1) 1	(5) 3	(3) 5	(2)	1	(1)	(19) 97

()は非常勤(会計年度任用職員)で外数

入所・入院部門

医療型障害児入所施設として、治療・訓練・生活指導など医療や育成の面で援助を行っています。また、不登校や概日リズム睡眠障害、起立性調節障害、摂食障害などの小児科疾患についても入院治療を行っています。なお、義務教育は隣接する諫早東特別支援学校（小学部・中学部）に通学できます。

1 実績

令和4年度の入院延人員は8,622人で、実人員は656人でした。そのうち県外からの入院児は38人でした。

○令和4年度 出身地別入院実人員

出身地	実人員	出身地	実人員	出身地	実人員
長崎市	92	西彼杵郡	35	福岡県	11
佐世保市	20	東彼杵郡	15	佐賀県	14
島原市	52	北松浦郡	7	鹿児島県	1
諫早市	201	南松浦郡	7	沖縄県	3
大村市	76			九州以外	9
平戸市	8				
松浦市	10				
対馬市	2				
壱岐市	3				
五島市	10				
西海市	6			他県計	38
雲仙市	38				
南島原市	36				
市部計	554	郡部計	64	合計	656

2 担当スタッフ 他部門との重複を含む

医師：11名、薬剤師：1名、診療放射線技師：1名、臨床検査技師：1名、理学療法士：7名
 作業療法士：7名、言語聴覚士：6名、看護師：28名、保育士：11名、児童指導員：2名
 心理士：6名、管理栄養士：2名、調理員：8名
 （令和4年5月現在）

3 業務内容

診察、治療、手術、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法（摂食指導を含む）、日常生活指導、学習指導、避難訓練、家庭との連絡、保育、評価、検査、福祉制度説明、プレイセラピー、カウンセリング（保護者）など。

4 主な業務の特色

(1) T.O.P.S

隣接する諫早東特別支援学校の自立活動の時間において、専門的な立場から指導目標、指導内容、指導方法等に関する指導助言を行っています。この名称を「T.O.P.S(トッパス)」(Teacher・OT・PT・Studentの略称)と呼び、カンファレンスなどで共通の目標を設定し、情報交換を密に行うことで療育の効果をあげています。

理学療法士は年間を通じて火曜日・金曜日の10:30～12:15、作業療法士及び言語聴覚士は学校の依頼に応じて参加しています。

令和4年度支援実績

区 分	支援日数(日)	対象児延べ人数(人)
理学療法士	31	258
作業療法士	0	0
言語聴覚士	0	0

(2) 親子入院

主に脳性麻痺をはじめとする脳性発達障害児、および発達障害のおそれがある未就学児を対象としています。また、離島や各地域に居住し、通所治療が困難な場合や集中した療法(理学・作業・言語聴覚)および指導が必要な場合は、親子共に入院し、診療、相談、指導を受けることができ、整形外科医、小児科医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、保健師、看護師、保育士、管理栄養士、調理員などのスタッフが担当します。

親子入院には、肢体不自由児を中心とした「らっこ組」と発達障害児を対象とした「めだか組」があります。

〔目的〕

- ・両親を中心に無理なくできる育児、療育、保育など発達促進の工夫を家族が知り、家庭で継続して実践できるような指導や助言を受けていただく。
- ・子どもと親がゆっくり関われる時間を持っていただく。
- ・一緒に入院した他の家族と知り合い、交流の機会を持っていただく。

〔開催時期〕

- ・らっこ組：通年(1週間・2週間コースあり)
- ・めだか組：年6回(1週間)

〔対象児〕

- ・らっこ組：0歳～就学前の脳性麻痺をはじめとする肢体不自由児
- ・めだか組：3歳～就学前の歩行ができる発達障害児

人員 \ 年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
利用延人員(人)	108	97	112	104	97	106
実人員(人)	68	54	53	48	48	53

(3) 評価入院

主として発達障害児を対象とし、日帰りとし、1泊2日入院があります。評価入院は、心理発達検査、作業療法評価、言語評価の中から組み合わせて行っていますが、理学療法評価が加わる場合もあります。評価の結果から今後の支援や対応につないでいます。

人員 \ 年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
利用延人員(人)	318	306	316	310	295	299
うち日帰り	313	300	307	304	288	291
うち1泊2日	5	6	9	6	7	7
(特例)2泊3日						1

(4) 短期入所(ショートステイ)

障害のある児童及び身体障害者を介護している家族が、レスパイトやきょうだいの行事等への参加、通院などのために家庭で介護することが一時的に困難になった場合に、当センターをショートステイ施設として利用しています。

ショートステイを初めて利用する場合は、利用前に小児科受診を勧め、ショートステイ当日は、医師の健康チェックを行っています。また、家族からの情報(注意事項・要望)を得、医師・看護師・保育士等で共有し関わっています。

利用は、重症心身障害児が多いため、対象児の安全に心がけ、看護師・保育士が協力して対応しています。

区 分		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
利用実人員(人)		20	25	20	9	13	21
延べ日数(日)		244	405	245	47	71	179
利用期間	日 帰 り(回)	11	22	7	21	4	7
	1 泊 2 日(回)	35	36	30	42	16	39
	3 日 以 上(回)	42	92	10	39	9	23
利用回数	1 回(人)	5	6	2	7	4	9
	2 回(人)	4	6	4	3	6	3
	3 回 以 上(人)	11	13	3	10	3	9

(5) 病棟・親子棟の看護

看護部では、「私たちは、自らの資質を高め、センター内外の関係職種と連携し、児がその子らしく成長発達ができるように援助します。」という理念のもとに看護を提供しています。

看護の提供方式は、固定チームナーシング方式で、1年間、看護部目標、病棟目標と連動してチーム目標を立てて取り組んでいます。現状の問題点を分析し、実現可能な目標を設定し、課題達成に向けて看護活動を実施しています。技術の伝承ができるように、小集団活動として取り組み、看護実践にいかしています。年度末にはチーム活動報告会を行い、看護研究に発展させています。

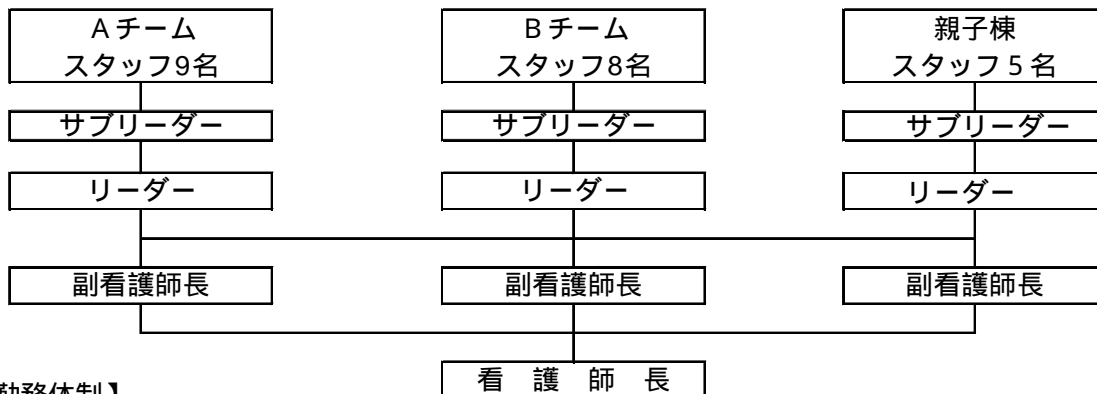
病棟では、看護師と保育士の協働で、入院・入所児の食事や入浴など日常生活や余暇活動の支援にあたっています。多職種での毎朝の申し送りと週に1回の合同カンファランスを行い、情報を共有し、効果的な支援が実践できるよう努めています。

また、入院中の就学児童は、隣接する諫早東特別支援学校で教育を受けています。同校の教員とは、日々の引継ぎや整形カンファランス、小児カンファランスで情報を共有し、連携を図っています。

【チームの特性】

区分	対象児	入院・入所児の状態
Aチーム	手術やリハビリを目的に入院・入所する児(者) ショートステイ	介護度が高い 言語的コミュニケーションの障害を持っている児がいる。 危険認知が乏しい児がいる。
Bチーム	小児心療科の児 てんかんの検査・治療を目的とする児	日常生活の自立度が高い 入院期間は、1泊2日～1週間の検査入院。内服調整入院。また心療では、数ヶ月～1年に及ぶ児もいる
親子棟チーム	肢体不自由児や医療的ケア児とその保護者 療育が必要な発達障害児とその保護者	保護者同伴のリハビリ入院 入院期間は1又は2週間 発達の評価を目的とした評価入院 入院期間は日帰りまたは1泊2日

【チーム編成】



【勤務体制】

区分		月	火	水	木	金	土	日
深夜(1:00～9:45)	看護師	3	3	3	3	3	3	3(2)
早出(7:00～15:45)	看護師			1		1		0(1)
早出(6:15～15:00)	保育士	2	2	1	2	1	1	1
	計	5	5	5	5	5	4	4
日勤(9:00～17:45)	看護師	8～12	8～12	8～12	8～12	8～12	4	4
	保育士	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4		
	計	11～16	11～16	11～16	11～16	11～16	4	4
準夜(17:00～1:45)	看護師	3	3	3	3	3	2(3)	3
遅出(12:30～21:15)	看護師	1	1	1	1	1	1(0)	
	保育士	2	2	2	2	1	1	2
	計	6	6	6	6	5	4	5

(6) 生活支援

育成班では、それぞれの能力や目的に応じた身辺自立と、社会性や協調性を身につけ楽しく集団生活を送ることができるように、看護師と協力して支援を行っています。

5 日課・年間行事

日課表

日課

起床・排泄・更衣・洗面	6 : 3 0
朝食準備	7 : 1 0
朝食	7 : 3 0
登校(授業)	8 : 2 0
幼児保育 10:30~11:15	}
検温・昼食(センター)	1 2 : 2 0
歯磨き・登校	1 3 : 0 5
下校	1 4 : 0 0
入浴・リハビリ・ 余暇活動・おやつ	1 5 : 0 0
夕食準備	1 7 : 2 5
夕食	1 8 : 0 0
歯磨き	1 9 : 0 0
学習、余暇活動	}
	2 0 : 0 0
就寝準備	2 0 : 3 0
消灯	2 1 : 0 0

主な年間行事(*学校と共催)

5月(*療育運動会)、8月(夏祭り)、11月(秋のレクレーション)、

12月(クリスマス会)、3月(卒業を祝う会)、

その他:避難訓練(毎月:第4水曜日)、ブラッシング(毎月:第1・2月曜日歯科衛生士来所)

所内での生活等

看護師、保育士、児童指導員が看護と日常生活を通じた療育（治療と育成）を行います。

また、夏祭り、クリスマス会などの諸行事により、集団生活を通して社会性を養います。

夏祭りのようす



クリスマス会のようす



節分のようす



卒業を祝う会のようす



外来部門

発達に障害を持っている児を対象に、医療、各種機能訓練、集団療育、心理療法、幼児保育、療育相談などを行っています。診療科目は整形外科、小児科（小児神経・小児発達・小児心療）、リハビリテーション科に加えて、非常設科として、小児歯科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の診療を行っています。

1 実績

令和4年度の外来患者数は、のべ29,585人。1日平均患者数は、個別訓練や集団療育を含めると121人/日。また、小児科診察で新患、再診の多い曜日には、143人/日の外来者があります。言語の遅れや落ち着きがないなどの小児発達や不登校などの小児心療科を受診する児は、増加しており、巡回療育相談や健診、地域の小児科からの紹介、保育所や学校からの紹介が増えています。

はじめての受診後は、当センターや地域での療育につなげています。

また、専門医がいない地域などに出向いて診療を行っており、令和4年度は諫早総合病院、西海市等乳幼児健診、五島中央病院、上五島病院、長崎大学病院小児科、長崎子ども・女性・障害者支援センター、佐世保市子ども発達センター、佐々町立診療所となっています。

2 担当スタッフ 他部門との重複を含む

医師：10名、薬剤師：1名、診療放射線技師：1名、臨床検査技師：1名、理学療法士：7名
作業療法士：7名、言語聴覚士：5名、看護師：8名、保育士：14名、児童指導員：2名
心理士：6名、管理栄養士：2名、調理員：8名（令和5年5月現在）

3 業務内容

診察、治療、手術、看護、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、療育相談及び指導、栄養指導や摂食指導、幼児保育や療育、検査、福祉制度説明、プレイセラピー、ペアレントトレーニング等

4 外来診療体制

以下の体制で、予約制をとり診療しています。けいれん発作やけいれん重積発作、肢体に基礎疾患のある児（者）の骨折などは、緊急対応を行います。診療は発達状況や障害の評価が必要に応じて行われます。

常設科	小児整形外科：月・水・金曜日（火曜日は手術） 小児発達・神経・心療：月～金曜日（新患は月・火・水・木の主に午前中）
非常設科	障害児歯科：月・火曜日 耳鼻咽喉科：第1木曜日 午後 泌尿器科：第2・4木曜日 午後
診察時間	9：00～17：00
休診日	土・日・祝日

5 主な業務の特色

1) 幼児保育

(1) 趣 旨

医師をはじめ、多職種との連携のもとに発達段階に応じた保育を行い、子どもの持つ能力を引き出すとともに、集団への適応力を育て、地域の保育所や幼稚園への就園、通所支援事業所等利用へとつなぐことを目指します。

(2) 目 的

「遊び」を通じて様々な発達を促す。

基本的な生活習慣の自立を目指す。

保護者の保育への参加を通して、子どもへの関わりについて支援する。

地域の保育所、幼稚園へ入所する前段階と考え、集団への適応力を育てる。

保護者間の交流を深め、育児の不安や悩みを話す場として活用してもらう。

病棟児・・・個々に応じて遊び方を工夫し、関わる職種間で連携・協力し、術後の回復やリハビリにしっかりと取り組めるように支援する。

親子入院・・・(リハビリ、ハンドリングが目的の入院)

保育の中で、入院目的に応じた観察およびアプローチを行う。保護者に対して、家庭での遊び方や関わり方を支援する。

外来児・・・個々のケースを観察し、発達段階に応じたアプローチを行う。親子保育を通して、保護者の子どもへの関わり方を支援する。地域の児童発達支援の利用や幼稚園・保育園の就園に向けて、集団への適応力を育てる。

(3) 対象児

医師の指示による未就学児

医師が幼児保育の必要性を認めた児

外来児については、保育所・幼稚園に就園していない児

評価、診察待機児

(4) 保育時間と内容

病棟・親子入院(月～金)	外 来(火～金)
10:30 受け入れ 出席カード・名札貼り・自由遊び	10:00 受け入れ 自由遊び
10:45 体操、マッサージ、お集まり、ふれあい遊び、カレンダー、お天気調べ、呼名、ペープサート	10:30 体操、呼名、ふれあい遊び マッサージ、ペープサート
11:00 設定保育(手を使ったあそび、運動あそび、リズムあそび、音楽療法)	設定保育(手を使ったあそび、運動あそび、リズムあそび・音楽療法)
11:15 おかえりのあいさつ	11:15 おかえりのあいさつ
外 来(評価待機児)(月)	め だ か
10:00～11:00 ひよこグループ 3歳以下	10:40～11:10 (S I室)自由遊び、サーキットなど 11:10～11:15 排泄指導 11:15～11:45 (集団療育室)リトミック、 マッサージ、認知課題、制作など

(5) その他

- ・保護者勉強会・・・・・・・・・・専門職種との懇談を通して、子育てに関する知識を得る機会を設定。
- ・園への技術支援・・・・・・・・・・就園後、保護者や園の依頼に応じて園支援を行う。就園先の職員の訪問・見学を受け入れる。

(6) 保育実績

区 分		30 年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	
外来	実人員	11	13	13	11	9	
	延人員	105	226	199	191	124	
病棟	実人員	20	26	17	13	20	
	延人員	397	694	392	370	477	
親 子 棟	らっこ	実人員	49	48	43	38	40
		延人員	392	487	458	410	435
	めだか	実人員	11	10	6	11	10
		延人員	56	67	30	62	51
	プレ	実人員	3	3			
		延人員	12	12			
合計	実人員	94	100	79	73	69	
	延人員	962	1,486	1,079	1033	1087	

プレスクールは H30 まで実施 R1 は「いるか」として実施

2) 外来・手術室の看護

外来・手術室は一単位であり、前述の看護部の理念をもとに看護を提供し、児(者)への援助の充実を図っています。

外来では、診察・治療・検査時の介助をはじめ、次回の外来予約（診療・処置・検査等）や入院予約時の対応など医師・療法士・心理士・検査技師・診療放射線技師・病棟看護師等の多職種と連携を図りながら援助しています。

また、保護者支援として保健師・社会福祉士・保育士と連携を図り、地域での援助につなげています。手術担当者は、外来で行われる手術前の診療から同席し、入院後に行う術前訪問等、手術前から児(者)や家族と関わっています。プレパレーションに力を入れ不安の軽減に努めています。また、手術時は安全・安楽に努め、手術後の病室訪問までを医師や病棟看護師と連携を図りながら行っています。

○外来・手術室業務

外来	診療の介助 リハビリ前の診察介助 診療後の再診予約受付と調整 入院の受付 こどもの状況・心療に関する相談 ギプス巻き介助 処置介助 診療材料管理
手術	手術前の診療介助 手術中の介助 手術前後の訪問 中材業務



手術室

脳性麻痺・股関節脱臼・内反足・四肢変形などすべての小児整形外科疾患・外傷を対象として手術治療も行います。

3) 外来訓練

(1) 理学療法

〔目的〕

主に運動発達の遅れや運動障害のある子どもに対して、遊びや生活に必要な粗大運動能力（寝返る・起き上がるなどの姿勢変換能力、座る・立つなど姿勢保持能力、這う・歩くなどの移動能力）の向上を目指した治療や運動を行います。

重い運動障害を持つ子どもに対しては、日常生活を快適に過ごせるように、全身状態の改善・変形予防などの姿勢ケアを目指し治療を行います。また、家庭や学校などでの生活を快適・容易にするために、能力に適した椅子や車椅子・歩行器などの製作をお手伝いします。

〔対象〕

新生児から成人までと年齢は幅広く、中でも乳幼児から中学生までが多く、主な疾患は脳性麻痺、運動発達遅滞、脳炎後遺症、染色体異常、二分脊椎、脊椎側弯、骨形成不全症、発達性協調運動症、その他整形疾患などです。

〔スケジュール〕

- ・個別 月曜日から金曜日の9：15～17：10で予約制
- ・プール療法 毎週木曜日の11：00～12：00

(2) 作業療法

〔目的〕

発達段階において何らかの困難さ・苦手さがある子ども達に対し、遊びを中心とした作業活動を通して、個々の子どもの発達課題や生活を考慮した治療を行います。また、障害があっても家庭や学校、社会で生き生きと生活できるよう指導、援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症(ASD)、限局性学習症(LD)、注意欠如多動症(ADHD)、発達性協調運動症(DCD)等の発達障害児。知的発達症。染色体異常、脳性麻痺、脳炎後遺症など肢体不自由児。

〔スケジュール〕

- ・個別 月曜日から金曜日の9：15～17：10で予約制

(3) 言語聴覚療法

〔目的〕

コミュニケーションや、摂食・嚥下機能に何らかの困難さや苦手さがある子どもたちに対し、コミュニケーション手段の獲得、言語能力の向上、安全な摂食・嚥下機能の獲得を目的として、評価、訓練、助言等の援助を行います。

〔対象〕

乳幼児から学齢児までの自閉スペクトラム症、限局性学習症等の発達障害児、言語症や語音症などのコミュニケーション症、染色体異常、脳性麻痺、脳炎後遺症などの肢体不自由児、聴覚障害。

〔スケジュール〕

- ・個別 月曜日から金曜日の9：15～17：10で予約制

(4) 集団療育

自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、発達性協調運動症、知的発達症などの子ども達に対してグループでの活動を実施します。

〔目的〕

医師、療法士、保育士、心理士他、様々な職種が一体となって子ども達の全体的な発達を促し、将来家庭や地域の中での自立・適応を目指します。

グループ活動を通し、対人意識・対人関係能力を高め集団生活への適応を促します。

保護者に対して、子ども達への関わり方や理解を深めるよう支援します。

関係機関を訪問する等して連携し、子ども達への相互理解を深めます。

〔対象〕

対人コミュニケーションが上手くとれない、落ち着きがない、集団生活になじみにくい、認知能力に大きな偏りがあるなどの特性がある幼児から小学生で、医師が集団療育を必要と認めた方です。

- ・午前グループ：超早期(初診受付時、3才未満)、超早期フォローアップ

幼児(年齢と特性に応じたグループ)

- ・午後グループ：幼児、学齢児

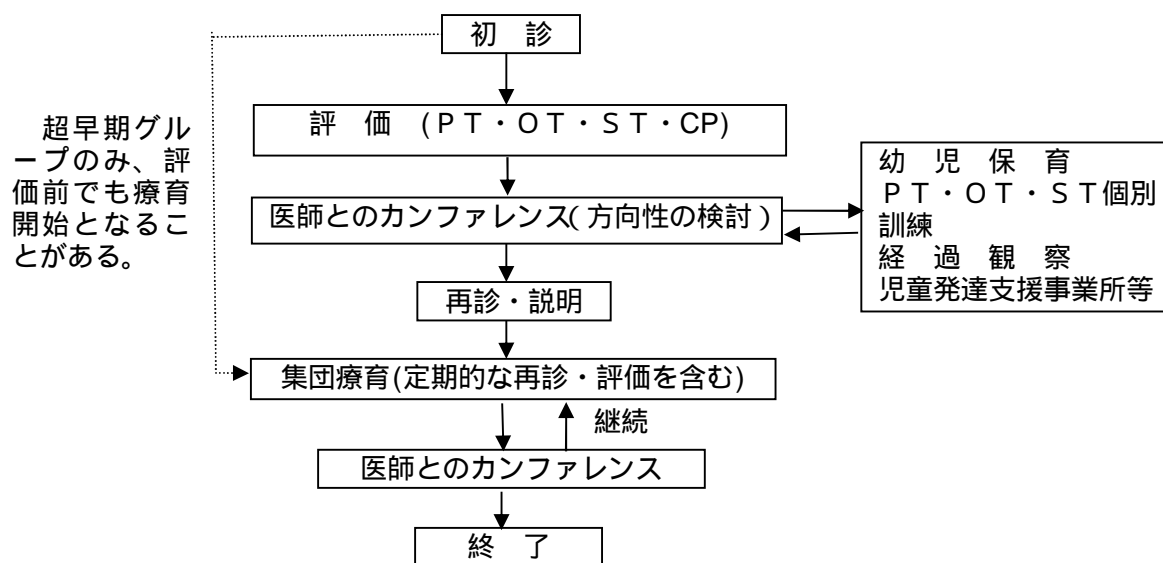
〔頻度〕

- ・月2回～月4回(対象児による)

〔内容〕

- ・小集団活動の中で子どもの状態に応じた課題や遊びを通して、対人意識やコミュニケーション能力を高め、ソーシャルスキルを学ぶ場を提供します。
- ・得意な活動とともに、苦手な活動にもチャレンジできるような場面設定や対応の仕方を工夫し、自信をつけられるように支援します。
- ・家庭や園・学校での様子を把握し、療育活動と関連づけ、保護者が療育及び子どもへの理解を深められるように支援する。また、言語、運動、遊び、日常生活動作、就学、福祉制度などについて専門職種による保護者勉強会を実施します。
- ・子どもが所属する園や学校などを訪問、支援するとともに、必要に応じて保護者によるサポートブック作成を援助し、地域で安心して生活するための一助とします。

《集団療育の流れ》



療育登録者及び参加人数の推移(年度)

区分	30年	元年	2年	3年	4年
登録者数	78	82	82	75	62
参加実人員	76	82	79	73	62
参加延人数	1,050	1,191	1,142	941	965

関係機関訪問実績(年度)

箇所/年度	30年	元年	2年	3年	4年
幼稚園	4	8	1	0	3
保育所(園)	20	24	3	9	6
こども園	1	4	0	1	0
小学校	16	11	2	8	8
その他	1	8	0	3	0

令和4年度学年別・居住地別登録者数

未満児	27
年少	11
年中	3
年長	4
1年	4
2年	3
3年	2
4年	4
5年	4
6年	0

諫早市	36
大村市	8
長崎市	7
川棚町	1
雲仙市	8
南島原市	1
県外	1

地域連携

当センターは県内の療育支援の中核的役割を担う施設として、体制の充実・強化および地域支援を「障害児等療育支援事業」として実施してきました。

平成23年度に地域連携室を新設し、従来の地域との連携や支援を充実させ、相談窓口および外来・リハビリ予約業務等を一元化し、利用者へのサービス向上を目指しています。

当センターにおける「障害児等療育支援事業」は在宅の障害児（者）の地域での生活を支えるため、療育拠点施設としての当センターの機能を活用して、療育支援体制の充実を図り、身近な地域で安心して暮らすための福祉の向上を目的としています。

1 訪問による支援（訪問療育相談支援事業）

巡回療育相談（実績一覧は資料編参照）

県立保健所や市町と連携しながら、当センターのスタッフが班を編成して、各保健所管内を巡回や家庭訪問により療育相談を行います。この相談の中で、当センター機能（外来受診、親子入院等）の紹介や地域の社会資源（医療機関、児童発達支援事業所、保育所・幼稚園、学校等）との連携をとることで、障害児の地域生活を支援します。

○実施回数：18回（延38日） 相談件数179件

この巡回療育相談の機会を利用し、地域で療育に携わる保健師・保育士等の療育関係者や保護者への研修会も開催しています。

関係機関訪問

当センターの療育を利用する児童が通う幼稚園・保育所・学校等を担当スタッフが訪問し、日常生活の様子を知ることにより、児童を取り巻く関係者と課題を共有し、当センターでの療育と地域での生活が一貫した支援の中で行われるよう取り組んでいます。

○訪問件数：15件（訪問先：学校6、幼稚園・保育所9、）

○派遣職種：OT7名、ST6名、保育士14名

2 外来療育等相談

外来時等に保護者や関係機関等から福祉制度、社会資源に関することや療育に関する相談などに応じています。

○相談対応：527件

3 地域生活支援（地域生活特別支援事業）

専門性が高く、市町での対応が困難な事例については、市町の求めに応じ、当センターの専門機能を生かした支援を行います。

○実績：9件（要保護児童地域対策協議会個別ケース検討会出席等）

4 県内の療育機関との連携や地域療育に関する啓発（地域療育支援事業）

県内の診療・療育体制についての課題、連携のための方策等の協議

会 議 名	実 施 日	参 加 機 関
地域療育担当者会議	R4.4.28(金)	集合形式で開催。 県北保健所、五島保健所、上五島保健所、 壱岐保健所、対馬保健所、県障害福祉課、 県こども家庭課、 こども医療福祉センター 計25名
こどもセンター等関係機関連絡協議会	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため 中止。
児童発達支援センター連絡会	R4.7.1(金)	オンライン形式で開催。 12機関 44名参加。

地域療育関係機関の従事者への研修及び実習

研 修 ・ 実 習 名	対 象 者	実 施 日	参 加 者 数(延べ)
地域療育従事者等研修会	県・市町保健師等 障害児通園事業ス タッフ	11月24日(木) 「肢体不自由児編」 11月25日(金) 「小児発達編」	53カ所 65人 106カ所 144人
地域療育短期実習	指導員・保育士・ 幼稚園教諭等	集団療育コース 16回 22日 幼児保育コース 3回 3日	37人 5人
障害児療育関係実習	障害児療育関係者	延べ4日	6人
児童発達支援センター 人材育成支援長期研修	児童発達支援セン タースタッフ	Co事業継続のため休止中	

5 施設等への技術支援

支援内容	支援対象	派遣職種・職員数(延)
障害児通所支援事業所支援	障害児通所支援事業所等 4ヶ所 延べ12回	派遣職員：OT2名、ST4名、 保育士6名 計12名
関係機関への技術支援	学校 6回 保育所・幼稚園 9回 計15回	派遣職員：OT7名、 ST6名、保育士14名、 計27名
(うち受診前技術支援)	(学校 5回 保育所・幼稚園4回 計9回)	(派遣職員：OT4名、ST3名、 保育士9名 計16名)
リハ・集団療育実施場面の見学受け入れ	学校 71回 保育所・幼稚園 6回 施設・事業所 10回 計87回	対応職員：PT67名、 OT7名、ST8名、保育士4名 計86名
研修会への講師派遣	施設・事業所 計2回	派遣職員：OT2名 計2名
	計115回	計127名

6 発達障害児地域療育連携推進事業

地域の中核となる児童発達支援センター職員の療育スキルの向上を目的とした技術支援や研修等を実施します。

療育機関や医療機関など発達支援の資源が少ない県北圏域、離島地区の療育スキル向上のため、技術支援や研修、および、園訪問への同行支援を実施します。

療育に関わる職員の療育スキル向上、事業所間の連携を図る場（こども支援会議等の地域のネットワーク）の構築への協力、アドバイザー参加、講師派遣を実施します。

【施設等への技術支援】（地域支援コーディネーター実績）

児童発達支援センター	事業所	保育所等	研修会	事業所 連絡会等	計
11回 (内 OL 1)	5回 (内 OL1回)	0回	4回	28回	39回

OL=オンライン

発達障害児（者）支援

平成17年4月1日施行された「発達障害者支援法」に基づき、こども医療福祉センター地域連携室相談支援班を発達障害者支援センター「しおさい」として位置づけ、発達障害児（者）及び家族等の支援を行っています（平成17年1月17日事業開始）。

平成28年5月の法改正により、発達障害児（者）やその家族等が身近な地域で支援が受けられるよう適切な配慮をするものと規定されたことから、地域支援体制の確立に向けて、「困難事例等への支援」や「支援機関の対応力の向上支援」などの専門的機能をさらに充実していく必要があります。

1. スタッフ

センター長（小児科医師）、副センター長（社会福祉職）
 係長（社会福祉職）1名、主任主事（社会福祉職）1名、相談支援員2名、
 地域支援マネジャー2名（平成26年度～）
 センター長及び副センター長はこども医療福祉センター職員が兼務。

2. 支援対象者

ASD（自閉スペクトラム症）、LD（限局性学習症）、ADHD（注意欠如・多動症）などの特有の発達障害を有する障害児（者）及びその家族
 を支援する人及び関係機関

3. 業務内容及び実績

		(年度)	R2	R3	R4
1. 相談支援・発達支援 (下記2.を除く全てのケース)	(1) 実支援人数・延支援件数	実人数	305	271	214
		延件数	980	503	349
	(2) 心理学的判定	実人数	4	6	3
	(3) 相談支援・発達支援に伴う情報共有(調整会議)	延件数	13	5	13
	(4) 相談支援・発達支援に伴う関係機関職員への助言(機関コンサルテーション)	延件数	125	95	74
(5) 相談支援・発達支援に伴う関係機関との連携	延件数	165	195	168	
2. 相談支援・就労支援 (就労支援に重点を置いた支援が行われたケース)	(1) 実支援人数・延支援件数	実人数	66	60	50
		延件数	712	492	401
	(2) 相談支援・就労支援に伴う情報共有(調整会議)	延件数	10	2	3
	(3) 相談支援・就労支援に伴う関係機関職員への助言(機関コンサルテーション)	延件数	28	20	28
(4) 相談支援・発達支援に伴う関係機関との連携	延件数	211	124	62	

関係機関、民間団体等への研修（令和4年度）

研 修 名	内容(演題)等
発達障害相談支援 従事者育成研修 (オンライン開催)	対象：市町職員、相談支援事業所職員、障害者就業・生活支援センター職員 内容：3回シリーズ ・発達障害者支援施策や取組について ・発達障害の基本的理解、行動特性への対応 ・支援の基本的な考え方 ・支援の実際と社会資源の活用、連携の仕方 ・家族の体験談 ・事例検討
発達障害相談支援 従事者育成研修 フォローアップ 研修会 (オンライン開催)	対象：令和2年度及び令和3年度発達障害相談支援従事者育成研修の全カリキュラム受講者であり、現在、市町等窓口、相談支援事業所、障害就業・生活支援センターに勤務する者 内容：事例検討
研修会等への 講師派遣(14箇所)	「発達障害支援の視点と支援の留意点」 「発達障がい者への具体的な支援の考え方」 「子どもの発達特性への理解と対応」 他

普及啓発研修(令和4年度)

研 修 名	内容(演題)・講師等
しおさいセミナー (オンライン開催)	講演「今すぐ」生きづらい枠を外せる社会へ ～かぎしっぽが目指すもの～ 講師：高井良 鴻 (NPO 法人 発達障害お悩み預り所 かぎしっぽ 理事長) 体験談：中岡党予氏 (NPO 法人 発達障害お悩み預り所 かぎしっぽ 理事) 坂口 信子氏 (NPO 法人 発達障害お悩み預り所 かぎしっぽ 理事) 大和田 美和子氏 (NPO 法人 発達障害お悩み預り所 かぎしっぽ 理事)
しおさい ミニセミナー (開催なし)	

栄養関係業務

入院児に対して各児の咀嚼能力や摂取能力に応じた形態別・栄養量別食事を提供しています。

(表)

親子棟入院児・外来患者に対する食事指導(相談)、入院児に対する昼食時の摂食指導を実施しています。(表)

季節の行事食及び年3回のお楽しみメニューを提供しています。(写真)

入院児の形態別・栄養量別食数(表)

区分		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		月平均	年計	月平均	年計	月平均	年計	月平均	年計
幼児食	常	312	3,746	160	1,925	247	2,966	129	1,543
	粗	40	475	36	430	56	671	114	1,369
	中	87	1,042	122	1,461	35	418	80	963
	極	3	32	19	231	10	118	13	154
	小計	441	5,295	337	4,047	348	4,173	336	4,029
小児食(小)	常	215	2,574	132	1,589	326	3,906	150	1,803
	粗	49	584	6	72	18	210	39	467
	中	44	529	36	434	41	494	21	256
	極	5	61	1	12	0	1	0	0
	小計	312	3,748	176	2,107	384	4,611	210	2,526
小児食(中)	常	182	2,179	382	4,589	390	4,680	277	3,319
	粗	5	64	4	45	0	4	8	100
	中	0	0	18	212	14	169	37	448
	極	7	87	0	3	21	253	0	0
	小計	194	2,330	404	4,849	426	5,106	322	3,867
小児食(大)	常	1,075	12,900	864	10,368	479	5,747	365	4,380
	粗	3	33	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	2	19	3	35
	極	0	0	0	0	0	0	5	61
	小計	1,078	12,933	864	10,368	481	5,766	373	4,476
常食計		1,584	19,011	1,781	21,371	1,638	19,656	1,242	14,898
特食	術後食	2	18	0	2	0	0	0	0
	カルシウム	0	0	0	0	0	0	0	0
	離乳食	49	593	33	391	34	409	25	297
	減量食	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペースト・ショート食	74	890	92	1,099	93	1,116	95	1,134
	貧血・造血食	0	0	0	0	29	347	0	0
	高脂血症	2	25	0	0	0	0	0	0
	高度肥満	0	0	13	156	49	582	43	510
	糖尿病食	0	0	0	0	0	0	0	0
	濃厚流動	0	0	0	0	0	0	4	52
	他	25	305	213	2,556	177	2,138	148	1,778
	特食計	594	7,126	350	4,204	383	4,592	314	3,771
絶食	13	156	9	112	14	167	82	980	
外泊	721	8,657	570	6,839	502	6,029	393	4,710	
合計	2,913	34,950	2,711	32,526	2,537	30,444	2,030	24,359	

注釈

○食形態分類

常（常食）：特に刻まない普通の食事

粗（あらきざみ）：1.5 cm位の大きさ

中（中きざみ）：1 cm位の大きさ、幼児用スプーンですくって食べられる程度

極（極小きざみ）：0.5 cm位の大きさ

○幼児食は、幼児食 A と幼児食 B の合計。

○小児食（大）には、小児食（特大）を含む。

栄養基準による分類

区分	幼児食 B	幼児食 A	小児食(小)	小児食(中)	小児食(大)	小児食(特大)
年齢の目安	男女 1～2	男女 3～5	男女 6～9	男女 10～11 女 16～18	女 12～15	男 12～18
エネルギー (kcal)	1 1 0 0	1 4 0 0	1 6 0 0	1 8 0 0	2 0 0 0	2 3 0 0
たんぱく質 (g)	3 5	5 0	6 5	7 0	7 5	8 5
脂質(g)	3 0	4 0	5 0	5 5	6 0	7 0
糖質(g)	1 7 0	2 1 0	2 2 0	2 5 0	2 9 0	3 0 0
カルシウム (mg)	4 5 0	6 0 0	6 0 0	7 0 0	7 0 0	9 0 0
鉄分(mg)	5	6	8	9	1 0	1 0

親子棟における栄養相談

親子棟入院児に対して、毎日昼食時に管理栄養士が栄養相談を実施しています。同時に、調理員が調理方法や食事形態等の希望を聞き取り、食事作りに反映しています。

『おやつは、幼児にとっては第4の食事』という考えで、できるだけ手作りおやつを提供しています。

親子棟における栄養相談件数（実相談人員）（表 ）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度	10	9	9	14	13	7	13	4	8	10	10	11	118
R3年度	8	2	9	10	10	8	11	8	9	8	8	8	99
R2年度	4	4	13	11	13	6	10	9	8	9	8	13	108
R元年度	7	6	11	14	15	13	13	10	9	7	8	12	125
H30年度	5	5	11	8	12	5	9	9	5	5	9	9	92

栄養指導

医師の栄養指導依頼票により、予約制で栄養指導を行っています。

摂食指導は、食事の提供をするとともに、言語聴覚士及び歯科医師、看護師、管理栄養士等のスタッフで実施しています。

入院児への栄養指導数（表 ）

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
栄養指導数		12	13	10	12	15
内 訳	管理栄養士のみの指導	12	11	10	12	15
	歯科医師、STの合同摂食指導	0	2	0	0	0

行事食・お楽しみメニューの実施

節分・ひな祭・子どもの日・七夕など、行事にあわせ、季節を盛り込んだメニューを提供しています。また、1学期の終業式とクリスマスにお楽しみメニューを、3学期の終了式にお祝い膳を提供しています。

七夕のニュー



お楽しみメニュー



クリスマスメニュー



お祝い膳



薬局・検査・X線撮影

1 薬局業務

調剤	注射薬の供給	血液業務	外来・入所児の薬歴管理
院内製剤	医薬品の品質管理	向精神薬・麻薬・毒薬の管理	
医薬品の発注	消毒薬の供給	医薬品の情報収集・提供	

(1) 令和4年度月別調剤件数

区分	外来処方箋			入院処方箋			合計		
	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数
4月	21	33	589	67	166	1,953	88	199	2,542
5月	17	31	313	90	174	2,004	107	205	2,317
6月	23	33	425	94	184	2,260	117	217	2,685
7月	19	26	294	125	236	3,117	144	262	3,411
8月	30	45	587	117	249	3,076	147	294	3,663
9月	18	24	211	113	217	2,494	131	241	2,705
10月	27	54	729	108	223	2,390	135	277	3,119
11月	25	40	365	94	179	1,898	119	219	2,263
12月	25	37	570	100	218	2,288	125	255	2,858
1月	21	26	338	112	205	2,096	133	231	2,434
2月	33	50	767	128	232	2,356	161	282	3,123
3月	32	50	804	102	187	2,356	134	237	3,160
合計	291	449	5,992	1,250	2,470	28,288	1,541	2,919	34,280

(2) 令和4年度月別麻薬・注射箋・院外処方箋枚数

区分	麻薬処方箋	注射箋	院外処方箋
4月	3	11	759
5月	4	11	772
6月	1	9	791
7月	2	17	749
8月	6	14	769
9月	1	7	779
10月	3	8	801
11月	3	13	829
12月	4	12	820
1月	3	11	759
2月	1	7	830
3月	0	8	889
計	31	128	9,547

(3) 令和 4 年度血液使用状況

実績なし

(4) 年度別調剤件数等

区分	外来処方箋			入院処方箋			合計		
	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数	枚数	調剤数	延調剤数
平成30年度	381	632	7,011	1,194	1,941	21,404	1,575	2,573	28,415
平成31年度	415	657	7,183	1,653	3,247	38,057	2,068	3,904	45,240
令和2年度	307	535	7,054	1,253	2,201	25,222	1,560	2,736	32,276
令和3年度	213	311	4,282	1,341	2,074	23,501	1,554	2,385	27,783
令和4年度	291	449	5,992	1,250	2,470	28,288	1,541	2,919	34,280

区分	麻薬処方箋	注射箋	院外処方箋(a)	外来処方箋(b)	院外処方箋率(a/(a+b)*100)
平成30年度	45	149	9,517	381	96.2%
平成31年度	42	148	8,544	415	95.4%
令和2年度	38	130	8,714	307	96.6%
令和3年度	40	124	9,206	213	97.7%
令和4年度	31	128	9,547	291	97.0%

2 臨床検査業務

生化学検査や血液検査などの検体検査は外部委託している。主な検査業務は次のとおり。

- 1) 脳波検査（一般及び睡眠賦活） 2) 心電図検査（自律神経検査を含む）
3) 脳波ビデオモニタリング検査 4) その他（感染症迅速検査、血球数・分類検査等）

（1）令和4年度月別検査件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳波検査	3	6	11	8	21	5	10	7	10	11	3	10	105
聴性脳幹反応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熱画像検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誘発筋電図	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心電図	9	12	17	15	9	7	10	12	7	10	10	13	131
（12誘導）	(4)	(7)	(10)	(5)	(5)	(2)	(8)	(4)	(3)	(8)	(1)	(7)	(64)
（CVR-R）	(5)	(5)	(7)	(10)	(4)	(5)	(2)	(8)	(4)	(2)	(9)	(6)	(67)
肺機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳波病棟モニタリング	4	2	1	4	4	1	2	0	3	3	0	3	27
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3
合計	16	20	29	27	35	13	22	19	20	26	13	26	266

（2）年度別検査件数

検査区分	年度				
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
脳波検査	149	139	129	108	105
聴性脳幹反応	0	1	0	0	0
熱画像検査	0	0	0	0	0
誘発筋電図	0	0	0	0	0
心電図	144	177	139	128	131
（CVR-R）	(65)	(75)	(64)	(54)	(67)
肺機能検査	4	1	0	0	0
脳波病棟モニタリング	35	36	24	14	27
その他	26	26	19	9	3
合計	358	380	311	259	266

3 X線撮影業務

(1) 年度別撮影等枚数

区分\年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般撮影		3,901	3,643	3,704	3,641	2,824
ポータブル	病棟	9	20	23	33	31
	手術室	182	161	182	219	190
透視		3	1	2	0	0
画像処理(CT除)		273	223	167	221	162
合計		4,368	4,048	4,078	4,114	3,207

(2) 月別業務件数(令和4年度)

(単位:件)

区分\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	136	121	158	160	192	120	132	143	122	151	129	165	1,729
ポータブル	病棟	3	4	10	5	2	0	0	0	3	0	0	27
	手術室	1	3	1	2	6	1	3	3	5	3	3	31
手術室(イメージ)	1	2	1	2	6	1	3	3	5	3	3	0	30
透視	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
C T	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	5
画像処理(CT除)	12	12	17	16	19	11	16	10	12	11	12	10	158
合計	154	142	187	187	226	134	154	161	144	171	147	176	1,983

(3) 月別X線撮影部位別撮影数調(令和4年度)

(単位:回)

区分\月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
単 純 撮 影	胸部	一般撮影	4	5	3	6	5	5	8	4	0	6	0	0
		ポータブル	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	腹部		0	0	0	0	2	0	1	1	0	2	1	3
	全脊椎		17	14	23	19	22	11	8	10	4	13	8	23
	骨盤~ 大腿	一般撮影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ポータブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	骨盤~ 下肢	一般撮影	13	15	10	25	21	5	15	20	10	23	16	16
		ポータブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肩~上肢		1	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	股関節	一般撮影	93	82	108	101	143	89	86	88	92	97	99	105
		ポータブル	15	15	7	25	48	0	11	0	11	40	3	0
	足部	一般撮影	80	58	77	80	73	50	43	96	63	80	96	101
		ポータブル	0	0	2	0	0	0	2	4	0	0	0	0
	その他	一般撮影	37	36	44	38	63	26	51	45	49	41	23	29
ポータブル		2	6	4	0	4	2	2	4	8	0	4	0	
透視		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	一般撮影	245	212	265	273	329	186	212	264	218	262	243	277	
	ポータブル	18	21	13	26	52	2	15	8	19	40	7	0	
合計		263	233	278	299	381	188	227	272	237	302	250	277	

心理業務

心理業務では、6名の心理士（常勤4名、非常勤2名）が、外来及び病棟・親子棟において心理検査、プレイセラピー、カウンセリング、思春期の集団心理療法（ソーシャル・スキル・トレーニング）等の心理療法（非常勤1名は小児心療科中心）、ペアレント・トレーニングや保護者への講話等の保護者支援を中心とした心理相談を行っています。

また、医師、療法士、保育士等の他職種と連携しながら集団療育に従事しています。検査結果について、情報提供の依頼があった保護者や関係機関あてに、診療情報提供書を作成しています。

年度別心理検査件数

（単位：件数）

年度\検査	遠城寺	田中ビネ	K式	WISC	WAIS	TOM	DN-CAS	LD評価	K-ABC	その他	合計
H30年度	50	15	392	490	14	38	0	138	20	171	1,328
R元年度	46	29	398	477	20	34	1	127	43	168	1,343
R2年度	43	28	371	538	18	15	0	162	81	394	1,650
R3年度	38	42	343	627	19	21	0	143	59	355	1,647
R4年度	18	28	418	610	11	20	0	118	55	346	1,624

年度別心理療法・心理相談人数

（単位：人数）

年度\種別	心理療法		心理相談	
	計	（再掲） SST	計	（再掲） ペアトレ
H30年度	543		117	32
R元年度	637		127	22
R2年度	567		120	18
R3年度	575	116	244	120
R4年度	568	100	262	143

（注1）R3年度より、相談人数（延べ人数）で整理して計上。

（注2）R3年度より、「心理療法」の「（再掲）SST」を計上。「（再掲）SST」については、思春期の集団心理療法（ソーシャルスキルトレーニング等）と個別で実施したソーシャルスキルトレーニング等に参加した延べ人数を計上。

（注3）「心理相談」の「（再掲）ペアトレ」については、保護者に対して集団及び個別で実施した延べ人数を計上。尚、ペアレントメンター講習会に参加した保護者も含めて計上。

診療情報提供書作成件数

(単位：件数)

年度\提供先	保護者	学校・ 教育機関	幼稚園・ 保育園	通所支援 事業所	医療機関	その他	計
H30年度	649	7	0	15	61	8	740
R元年度	722	0	1	4	68	11	806
R2年度	744	0	1	3	80	6	834
R3年度	692	23	1	1	48	7	772
R4年度	747	14	2	7	76	4	850

研究・実習等

1. 研究発表・講演・著作等

医局部門

○松尾光弘 井上大師、森山薫、町肇、山下未央、宮崎睦子、長岡珠緒
発達障害児の評価入院による診療体制の構築
第 63 回小児神経学会学術集会 WEB 2020 年 5 月 28 日

○松尾光弘：講演「地域療育について」
地域療育従事者研修会(WEB 研修)
こども医療福祉センター 諫早市、2021 年 11 月 26 日

○松尾光弘：講演「当センターの役割について」
地域療育担当者会議(WEB 研修)
こども医療福祉センター 諫早市、2021 年 4 月 30 日

小柳 憲司

連載：「不登校の経過（2）混乱期」教育トークライン 532 号 2021.4.1
連載：「不登校の経過（3）休養期から回復期へ」教育トークライン 535 号 2021.7.1
連載：「不登校の経過（4）回復期から助走期へ」教育トークライン 538 号 2021.10.1
連載：「不登校の経過（5）助走期から復帰期へ」教育トークライン 541 号 2022.1.1

小柳 憲司

論文：「小児心療科における長期入院治療の意義」
子どもの心とからだ 第 30 巻 1 号、2021.5.1

小柳 憲司

講演記録：「学校に行けない子供たちに救いの手を！」
TOSS 特別支援教育 第 19 号、2021.10.1

小柳 憲司

分担執筆：23 小児科疾患「小児の摂食障害」
今日の治療指針 2022 年版、医学書院、2022.1.1

小柳 憲司

論文：「思春期の子どもの機能性身体症状とその対応」
医学のあゆみ 第 280 巻 7 号、2022.2.12

小柳 憲司

講演：「不登校の子どもに対する医療的支援」

日本学校心理士会長崎支部研修会、オンライン、2021.6.27

小柳 憲司

講演：「不登校の子どもに対する入院治療 当センターでの取り組み」

地域連携児童思春期精神医学講座ネット研修会、オンライン、2021.9.8

小柳 憲司

講演：「思春期女子に多い POTS（体位性頻脈症候群）」

第 30 回日本婦人科がん検診学会 第 28 回 29 回日本がん検診・診断学会共同セミナー、
オンライン、2021.9.12

小柳 憲司

講演：「HPV ワクチンと機能性身体症状」

第 36 回日本女性医学学会シンポジウム 1、大阪、2021.11.6

小柳 憲司

講義：「ちょっと気になる子どもたち 発達障害について」

チャイルドラインながさき受け手ボランティア養成講座、出島交流会館、2021.11.21

小柳 憲司

講演：「思春期の子どもの機能性身体症状とその対応」

第 34 回日本性感染症学会シンポジウム 7、オンライン、2021.11.28

小柳 憲司

講義：「医療現場における子ども虐待への対応」

令和 3 年度佐世保市総合医療センター虐待に関する研修会、オンライン、2021.12.23

小柳 憲司

講演：「思春期の子どもの機能性身体症状とその対応」

自治体 HPV ワクチン Web セミナー、オンライン、2022.1.21

小柳 憲司

講演：「機能性身体症状への対応について」

日本産科婦人科学会主催 子宮頸がん予防 WEB カンファレンス、オンライン、2022.2.7

小柳 憲司

講演：「小児心療科事始め 身体を通して『こころ』に触れる」

第 526 回福岡西部小児科臨床懇話会、オンライン、2022.3.9

井上 大嗣、町 肇、森山 薫、宮崎 睦子、小柳 憲司

論文：「自閉スペクトラム症を伴う選択的摂食の児に対する療育的アプローチ

「 当センター親子入院での取り組み 」

子どもの心とからだ 第 30 巻 1 号、2021.5.1

井上 大嗣、町 肇、森山 薫、山下 未央、松尾 光弘

学会発表：「神経発達症の子どもの保護者支援 - 当センター評価入院の取り組み 」

第 63 回小児神経学会学術集会、福岡（オンライン）、2021.5.28

井上 大嗣

講演：「起立性調節障害とそのケアについて」

西彼杵郡教育研究会学校保健部講演会、長与町南交流センター、2021.12.3

林田 拓也、西口 奈菜子、渡辺 麻美、原口 康平、里 龍晴、森内 浩幸、渡邊 嘉章、
本田 涼子、森山 薫、村上 良子

学会発表：「難治性 West 症候群，先天性難聴，ジストニア，精神運動発達遅滞，特異的顔貌
を呈する PNPT1 変異の 1 例」

第 63 回日本小児神経学会、福岡（オンライン）、2021.5.27

看護部門

本嶋 りさ：講義「発達に障害をもつ小児と家族の看護」

長崎県立シーボルト校、長与町 R4.7.5

リハビリ部門

浦川 純二：講義「小児理学療法」

長崎こころ医療福祉専門学校 理学療法学科 2 年 長崎市 R4.4.~7.（前期）

浦川 純二：講義「統合治療論 発達障害」

長崎医療技術専門学校 理学・作業療法学科 3 年 長崎市 R4.4.16.

浦川 純二：講義「保健医療福祉専門職連携論 急性期」

長崎リハビリテーション学院 理学療法学科二部 2 年 大村市 R4.4.30.

○山縣 義昭：講義「感覚統合」

保育所保健所技術支援研修会（対馬巡回相談 鶏知保育所） R4.6.28

- 池田 敏博：講義「SSTについて」
やまびこ学苑職員研修 Web R4.6.29

- 前田 隼：講義「人間発達学」
こころ医療福祉専門学校 Web R4.6-7

- 浦川 純二：講義「小児理学療法の基本と実践」
理学療法士協会後期研修会 佐世保市 R4.7.23.

- 浦川 純二：講義「小児リハにおける姿勢保持具とPTの役割」
第1回長崎県理学療法士協会学術研修会 佐世保市 R4.7.24.

- 琴岡日砂代：グループ指導「日本感覚統合学会 認定講習会 B(解釈)コース」
日本感覚統合学会 Web R4.8.8

- 琴岡日砂代：実技指導「日本感覚統合学会 認定講習会 A(評価)コース」
日本感覚統合学会 福岡県 R4.9.22-25

- 池田 敏博：講義「集団療育プログラムについて」
児童発達支援センターげんき 職員研修 R4.10.7

- 鶴嵐 禎子：講義「ことばとコミュニケーション」
壱岐市地域療育者研修会 壱岐市 R4.10.12

- 浦川 純二：実技指導「上田法治療認定講習会」
上田法治療研究会 福岡県 R4.9.17. 10.15.

- 鶴嵐 禎子：講義「ことばとコミュニケーション」
療育研修会 新上五島町 R4.10.28

- 浦川 純二：講義「小児理学療法学」
長崎医療技術専門学校 理学療法学科2年 長崎市 R4.10.29.~12.10.(後期)

- 山縣 義昭：講話「感覚統合」
幼児・学童期の発達支援研修会(上対馬巡回相談) R4.11.17

- 本嶋 裕幸：講義「肢体不自由児を支援するために」
（姿勢ケアとハンドリングの基本的な考え方について）
地域療育従事者研修会 肢体不自由児編 Web R4.11.24.
- 琴岡日砂代：講義「豊かな生活につなげる～遊び・学び」
地域療育従事者研修会 肢体不自由児編 Web R4.11.24
- 鶴嶋 禎子：講義「言語発達とコミュニケーション」
地域療育従事者研修会 肢体不自由児編 Web R4.11.24
- 鶴嶋 禎子：講義「言語発達とコミュニケーション」
地域療育従事者研修会 小児発達編 Web R4.11.25
- 池田 敏博：講義「こどもの行動と感覚統合」
地域療育従事者研修会 小児発達編 Web R4.11.25
- 前田 隼：座長「ポスターセッション9」
第9回日本小児理学療法学会学術大会 Web R4.11
- 前田 隼：講義「障害別理学療法学（小児）」
長崎リハビリテーション学院 大村市 R4.11-12
- 前田 隼：講義「理学療法技術実習」
長崎リハビリテーション学院 大村市 R4.12
- 山縣 義昭：講話「B活の作業療法」
令和4年度 第6回こやぎ会（Bチーム家族会） R4.12.2
- 池田 敏博：講義「療育における支援について」
ななつの風職員研修会 R5.1.13
- 鶴嶋 禎子：講義「気になる子の理解と対応・言語とコミュニケーション」
諫早こどもデイネット新任職員部会研修会 諫早市 R5.1.27
- 小田 弘海：講義「感覚統合入門講習会の受講前後における訓練内容の変化について」
センター職員発表会 R5.1.31

○前田 隼 : 発表「診療参加型臨床実習の実践報告」
(公社)長崎県理学療法士協会 令和4年度臨床教育研修会 Web R5.2.4

○琴岡日砂代: 講義「日本感覚統合学会 入門講習会基礎コース」
日本感覚統合学会 Web R5.3.11

地域連携室部門

地域支援班

丸田 潤: 講義「保育士が行うアセスメントについて」
佐世保市立すぎのこ園、児童発達支援・放課後等デイサービスおとは
合同職員研修会、R4.5.31(火)

丸田 潤: 講義「ペアレンジャー養成講座について」
児童発達支援センターポランのひろば、こどもてらす光風台
合同職員研修会、R4.6.24

丸田 潤: 講義「療育機関における保護者支援について」
対馬市こどもデイサービスセンター きらきらルーム職員研修会
R4.8.26(金)

丸田 潤: 講義「集団療育における保護者支援の取り組みとサポートブックについて」
児童発達支援センターポランのひろば 職員研修会 R4.9.2(金)

丸田 潤: 講義「地域・保護者との連携支援について」
令和4年度地域療育従事者研修会(肢体不自由児編) R4.11.24(木)

丸田 潤: 講義「療育における支援について」
多機能型事業所ななつの風 職員研修会、R5.1.13(金)

丸田 潤: 講義「発達障害児の理解と援助」
R4年度地域療育短期実習 (計14回)

丸田 潤: 講義「当センターにおける超早期療育について」
R4年度地域療育短期実習(R4.7.12、11.22)

丸田 潤：講義「集団療育プログラム、行動の理解等について」
R4年度地域療育短期実習 応用編（R4.9.27、12.6）

相談支援班

福田 桂：講義「発達障害のある方の理解のために」
令和3年度長崎県新任課長等研修（長崎市・オンライン）、R3.7.15、7.30

小川敬志：講義「発達障害のある方の理解について
～発達障害者支援センターしおさいを通して～」
活水女子大学健康生活学部子ども学科学生（所内）、R3.8.24

小川敬志：講義「発達障害についての正しい理解」
諫早市立真津山小学校校内研修（諫早市・オンライン）、R3.8.31

大庭彩子：講義「家族支援について」
長崎県知的障がい者福祉協会児童発達支援部会研修会（長崎県内・オンライン）
R3.10.5

大庭彩子：講義「発達凸凹の方への合理的配慮と就労について」
大村高等学校定時制研修会（大村市）、R3.10.21

福田 桂：講義「発達障害者支援センターしおさいについて」
令和3年度発達障害について学び、考える勉強会（佐世保市）、R3.10.26

福田 桂：講義「発達障害のある方の就労支援について」
就労支援事業所アストルテ事業所内研修（諫早市）、R3.10.27

副島悠紀：講義「発達障がい者への具体的な支援の考え方」
障がい福祉サービス事業所研修会（専門講座）（佐世保市・オンライン）、R3.11.25

副島悠紀：講義「高等教育機関における発達障害にかかる支援」
令和3年度特別支援教育研修会（佐世保市・オンライン）、R3.11.26

小川敬志：講義「発達障害について知ろう」
ながさき県政出前講座（大村市・オンライン）、R4.2.17

育成部門

○野原愛衣：講義「子どもたちとの関わり方～子育て戦隊ペアレンジャーより～」
看護部職員研修会 R4.6.28

○小西尚代：講義「こども医療福祉センターにおける幼児保育について」
R4 年度地域療育短期実習 R4.7.5 R4.10.4

○松瀬美穂：講義「こども医療福祉センターにおける幼児保育について」
R4 年度地域療育短期実習 R4.6.7

松瀬美穂、小川祐子：講義「当センターにおける幼児保育について」
地域療育従事者研修会 R4.11.24

○林田茉莉：講義「気になる子の理解と対応」
地域療育従事者研修会 小児発達編、Web、R4.11.25

○林田茉莉：講義「療育におけるアセスメントについて」
PARK すくすく 児童発達支援事業所支援 R4.6.29

心理部門

○川嶋 夏帆：講義「保護者への支援について～ペアレント・トレーニングを中心に～」
令和4年度地域療育従事者研修会基礎編 R4.11.25

放射線科

○村木 伸幸：講義「こども医療福祉センターでの撮影業務時の注意点等」
令和3年度長崎県職員診療放射線技師等研修会
県央保健所 R4.3.10

2. ボランティア活動

ボランティア受入実績

新型コロナウイルス感染拡大防止のため受け入れ中止。

3. 実習受入(過去5年間)

職種	学校名	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
保育士	長崎女子短期大学	2	2	2	2	2
	長崎短期大学	2	1	2	1	1
	西九州大学		1			
	活水女子大学	2	1	1	2	3
	長崎大学	1				
	佐賀女子短期大学	2	1			
インターシップ	長崎県立大学	3	1	1		
	長崎大学			3		
	活水女子大学					
	長崎純心大学		1			
	九州大学		1			
	明治大学					
	長崎女子短期大学		1			
職場体験	諫早農業高校	2	2			
	明峰中学校					
	長崎日大中学					
理学療法士	長崎大学医学部保健学科	2	2	1	3	3
	長崎リハビリテーション学院	2	2	6	4	3
	長崎医療技術専門学校	2	2	2	7	4
	こころ医療福祉専門学校	3	2	2	5	2
作業療法士	長崎大学医学部保健学科	13	13	14	2	1
	長崎医療技術専門学校	1	1	1	5	3
	長崎リハビリテーション学院				1	3
言語聴覚士	九州保健福祉大学			1	2	1
	福岡国際大学					1
	国際医療福祉大学			1	1	2
	長崎リハビリテーション学院			2	3	3
管理栄養士	長崎国際大学		2			
栄養士	長崎女子短期大学	2				
看護師	活水大学看護学部	74	72	73	43	70
	活水大学子ども学科			9	3	8
	向陽高校衛生看護専攻科	42	37	41	23	40
	島原市医師会看護学校	36	34	39	33	38
合計		191	179	201	140	188

(1) 入院患者数の推移

年度	病床数	延患者数	1日平均患者数	病床利用率
昭和47	160	55,937	152.8	95.5
48	160	52,406	143.6	89.7
49	160	47,876	131.2	82.0
50	160	45,648	125.1	78.2
51	160 (124)	44,477	121.5	76.0 (98.0)
52	160 (124)	44,513	122.0	76.2 (98.3)
53	160 (124)	35,731	97.9	61.2 (78.9)
54	160 (124)	34,774	95.3	59.5 (76.8)
55	160 (124)	34,149	93.3	58.3 (75.2)
56	160 (124)	33,759	92.5	57.8 (74.6)
57	160 (124)	36,916	101.1	63.2 (81.6)
58	160 (110)	37,961	104.0	65.0 (94.5)
59	160 (110)	33,552	91.7	57.3 (83.3)
60	110	32,483	89.0	80.9
61	110	30,919	84.7	77.0
62	110	32,688	89.6	81.4
63	110	31,442	85.9	78.1
平成元	110	31,027	85.0	77.3
2	110 (80)	28,346	77.7	70.6 (97.1)
3	110 (80)	26,629	73.0	66.3 (91.2)
4	110 (80)	21,907	59.9	54.4 (74.8)
5	110 (80)	23,756	65.1	59.2 (81.4)
6	110 (80)	24,400	66.8	60.8 (83.6)
7	110 (80)	23,862	65.4	59.4 (81.7)
8	110 (80)	23,086	63.1	57.3 (78.8)
9	110 (80)	22,538	61.7	56.1 (77.2)
10	110 (80)	21,323	58.4	53.1 (73.0)
11	110 (80)	18,840	51.6	46.9 (64.5)
12	110 (80)	18,960	51.8	47.1 (64.8)
13	60	17,387	47.6	79.4
14	60	17,853	48.9	81.5
15	60	15,722	43.1	71.8
16	60 (53)	13,708	37.5	62.4 (70.7)
17	60	14,918	40.9	68.1
18	60	16,315	44.7	74.5
19	60	15,086	41.2	68.7
20	60	14,437	39.6	65.9
21	60	13,364	36.6	61.0
22	60	13,226	36.2	60.4
23	60	14,179	38.7	64.6
24	60	13,373	36.6	61.1
25	60	12,635	34.6	57.7
26	60	12,475	34.2	57.0
27	60	13,239	36.2	60.3
28	60	12,951	35.5	59.1
29	60	12,346	33.8	56.4
30	60	11,060	30.3	50.5
令和元	60	12,433	34.0	56.6
2	60	11,596	31.8	52.9
3	60	10,756	29.5	49.1
4	60	8,622	23.6	39.4

(2) 外来患者数の推移

年度	延患者数		1日平均患者数	
	本所	通園部	本所	通園部
昭和47	2,607		8.8	
48	2,306		7.8	
49	2,823		9.5	
50	2,783		9.4	
51	3,130		10.5	
52	3,211		10.8	
53	3,959		13.3	
54	4,627		15.4	
55	5,749		19.4	
56	7,599		25.6	
57	8,395		28.3	
58	8,510	1,406	28.6	4.7
59	9,125	2,150	30.9	7.2
60	9,119	2,055	30.7	6.9
61	9,207	2,332	31.1	7.9
62	9,458	2,509	31.7	8.5
63	9,083	2,308	30.7	7.7
平成元	10,343	1,650	35.0	5.6
2	13,056	1,682	44.6	5.7
3	12,158	1,893	41.4	6.5
4	9,890	1,523	33.8	5.1
5	10,578	2,085	43.4	7.1
6	10,903	2,177	44.5	8.9
7	11,272	2,220	45.8	9.1
8	10,864	2,175	44.3	8.8
9	11,083	1,958	45.2	8.0
10	11,121	1,931	45.4	7.9
11	11,473	1,832	47.0	7.5
12	12,484	1,773	51.0	7.3
13	17,369	1,539	40.9	6.3
14	19,621	* 637	80.0	5.1
15	20,700		85.0	
16	20,812		85.6	
17	22,575		95.7	
18	24,636		100.6	
19	25,564		104.3	
20	25,995		107.0	
21	27,165		111.8	
22	27,025		110.8	
23	26,460		108.4	
24	26,620		109.1	
25	28,804		118.0	
26	28,317		116.1	
27	28,757		118.3	
28	29,200		120.2	
29	29,438		120.6	
30	29,461		120.7	
令和元	29,610		123.4	
2	29,872		121.4	
3	28,964		119.7	
4	29,585		121.7	

(注1) 病床数は許可病床数で、()内の数字は実働稼働病床数
 (注2) 病床利用率は許可病床数に対する利用率で、()内の数字は実働稼働病床数に対する利用率。

(注)*は平成13年9月末で通園部廃止のため、4~9月までの実績

(3) 入所・入院患者の病類別人員(毎年10月1日現在)

(単位:人)

病類\年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
脳性麻痺	4	7	10		2	1	1	3	3	5	
先天性股関節脱臼	3	3	1	1	5	3		4		2	4
骨系統疾患	1	2	3	3	1	2	1	3	1	2	
ペルテス病			3	4	3	2	2				
側わん症			1			1					
内反足	1	1			1			1	1	5	
二分脊椎椎						1			1		
癍痕拘縮											
大腿骨折後遺症									2		
大腿骨偽関節											
軟骨無形成症				2		2		2	1	1	
先天性脊椎骨端異形成症											
急性脳症後遺症	1				1	1	3	1			
神経発達症									2		
起立性調節障害										1	4
てんかん	2	3	1	1	2	2	1	2	3		1
気分障害	9	3		3		2	3	3			1
摂食障害		2		1	1	2	2	1	1	2	1
概日リズム睡眠・覚醒障害	2			1	9	2	2	1	2	3	
その他	13	14	16	15	5	13	15	22	17	13	10
内、適応障害									14	11	9
内、その他の整形疾患									3	2	1
合計	36	35	35	31	30	34	30	43	34	34	21

(4) 入所・入院患者の在所期間別(毎年10月1日現在)

(単位:人)

在所期間\年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
0~1年未満	35	33	33	29	29	34	27	43	34	34	21
1~2年未満		1	1	2	1		3				
2~3年未満	1		1								
3~4年未満		1									
4~5年未満											
5年以上											
計	36	35	35	31	30	34	30	43	34	34	21

(5) 入所・入院患者の年齢別(毎年10月1日現在)

(単位:人)

年齢\年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
0~1歳未満		2								2	
1~2歳未満		1		2	1			2		1	1
2~3歳未満	1	1	1	1	2			1	1		
3~4歳未満		2	2				2	2			
4~5歳未満	3	1	3	2	1	2	1		2		1
5~6歳未満		3	2	2	2		1	1	1	3	1
6~7歳未満	1		3	1	1	1		4			1
7~8歳未満	1	3		1	2	1	1	1		1	
8~9歳未満	1		2	1	1	1		3		1	1
9~10歳未満		1			1	2			2	1	
10~11歳未満		2		2		1	1	1	1	4	
11~12歳未満	1	1	4		1			1	1	2	
12~13歳未満	4	2	1	1	1	3	1	3	4		1
13~14歳未満	5	4	3	3	2	7	6	3	5	4	4
14~15歳未満	12	2	8	6	7	9	11	11	9	9	8
15~16歳未満	7	7	4	7	6	7	6	9	6	4	3
16~17歳未満				1	2				1	1	
17~18歳未満		1									
18歳以上		2	2	1				1	1	1	
計	36	35	35	31	30	34	30	43	34	34	21

(6) 外来患者の病類別延人員

(単位:人)

病類\年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
1 精神遅滞	2,052	2,025	1,663	1,541	1,379	1,258	1,305	1,269	1,184	1,110	1,136
2 コミュニケーション障害	1,267	1,533	1,367	1,642	1,743	1,753	1,518	1,907	2,349	2,693	2,887
3 自閉症スペクトラム障害	3,393	3,642	3,865	4,237	4,087	3,996	3,910	4,102	4,636	4,086	4,041
4 注意欠陥多動性障害	3,005	3,757	4,534	4,947	5,624	6,414	6,871	6,406	6,518	5,932	5,391
5 学習障害	234	231	228	232	278	308	279	236	235	155	179
6 発達性協調運動障害	11	86	175	202	437	416	485	422	300	282	301
7 運動発達遅滞	919	1,180	1,336	1,381	1,150	1,289	1,367	1,444	1,476	1,694	1,513
発達障害小計	10,881	12,454	13,168	14,182	14,698	15,434	15,735	15,786	16,698	15,952	15,448
8 先天性股関節脱臼	298	400	252	195	209	236	174	206	203	169	140
9 脊髄髄膜瘤・脊髄破裂症	412	543	526	457	353	368	391	385	265	219	232
10 開排制限	54	169	187	365	579	701	803	846	1,017	1,083	912
11 ベルテス	57	51	37	46	61	58	56	50	37	63	46
12 斜頸	45	40	70	42	16	20	34	29	22	25	14
13 側わん症	333	337	256	239	244	232	148	121	159	118	92
14 四肢奇形	108	103	94	55	58	72	51	39	38	19	19
15 内反足	191	196	158	120	148	137	180	173	147	145	166
16 X脚・O脚	179	165	138	166	170	114	82	77	42	33	33
17 脳炎後遺症	470	439	347	266	197	170	150	132	163	128	116
18 片麻痺・対麻痺	329	315	307	265	256	223	187	132	130	102	97
19 骨形成不全	161	147	169	85	121	123	123	135	131	137	109
小児整形小計	2,637	2,905	2,541	2,301	2,412	2,454	2,379	2,325	2,354	2,241	1,976
20 気分障害	687	610	524	379	262	188	147	136	122	128	103
21 不安障害	1,043	872	733	514	503	424	341	264	189	145	142
22 摂食障害	113	181	138	126	104	47	46	65	97	132	152
23 夜尿症・遺尿症	173	150	137	110	100	65	72	42	32	44	40
24 不登校	8	23	30	29	31	30	19	56	9	1	0
25 心身症	91	58	59	51	36	36	44	30	25	14	11
小児心療小計	2,115	1,894	1,621	1,209	1,036	790	669	593	474	464	448
26 てんかん	2,878	2,677	2,497	2,428	2,339	2,227	2,165	2,044	1,805	1,583	1,532
小児神経小計	2,878	2,677	2,497	2,428	2,339	2,227	2,165	2,044	1,805	1,583	1,532
27 脳性麻痺	3,729	3,639	3,217	2,952	2,695	2,650	2,485	2,332	2,010	1,759	2,012
28 ダウン症・染色体異常	1,057	962	799	715	893	786	585	497	411	333	343
29 その他	2,627	3,562	3,696	4,162	4,304	4,278	4,783	5,229	5,509	6,142	7,333
計	25,924	28,093	27,539	27,949	28,377	28,619	28,801	28,806	29,261	28,474	29,092

(注) この表と「(2) 外来患者数の推移」とは、集計方法の違いのため延患者数が一致しない部分がある。

(7) 外来患者の出身地別延人員

(単位:人)

出身地\年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
長崎市	3,591	3,705	3,330	3,237	3,245	3,222	3,198	3,306	3,396	3,384	3,503
佐世保市	705	838	732	670	606	587	612	682	608	570	594
島原市	1,166	1,302	1,193	1,202	1,201	1,300	1,256	1,204	1,153	1,132	1,231
諫早市	9,265	10,305	9,991	10,686	11,201	11,483	11,839	12,471	12,939	12,276	12,532
大村市	5,155	5,771	6,216	6,139	5,996	5,875	5,599	4,805	4,672	4,586	4,505
平戸市	127	151	152	159	138	170	192	173	148	149	155
松浦市	84	87	96	90	83	109	125	102	131	115	110
対馬市	45	39	21	6	22	17	10	23	9	17	19
壱岐市	9	5	34	37	6	8	9	8	19	12	11
五島市	79	52	39	46	51	59	46	38	22	30	23
西海市	306	323	284	337	290	252	172	176	177	169	226
雲仙市	1,780	1,762	1,838	1,798	1,947	1,956	2,178	2,515	2,743	2,912	2,908
南島原市	932	1,008	1,148	1,235	1,318	1,251	1,226	1,286	1,297	1,381	1,431
西彼杵郡	671	676	664	619	723	697	657	664	723	702	732
東彼杵郡	1,012	1,084	1,000	1,011	956	1,040	1,046	776	730	672	701
北松浦郡	51	42	17	26	33	31	40	65	62	39	31
新上五島町	72	52	20	26	25	13	12	4	18	12	22
他県	674	721	618	498	414	455	486	423	298	248	294
職員	200	170	146	127	122	94	98	85	116	68	64
計	25,924	28,093	27,539	27,949	28,377	28,619	28,801	28,806	29,261	28,474	29,092

(注) この表と「(2) 外来患者数の推移」とは、集計方法の違いのため延患者数が一致しない部分がある。

(8) 手術実績

令和4年度病名別手術件数

(単位：件数)

病名\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
脳性麻痺				1	3		1	1		2			8
先天性股関節脱臼	1			1	1				1				4
先天性内反足							1						1
ペテルス病									1	1			2
二分脊椎													0
先天異常(骨系統・代謝・奇形)		3	1		2		1	1	2				10
外傷	1												1
その他	1	1				1		1			1		5
計	3	4	1	2	6	1	3	3	4	3	1	0	31

手術件数の推移

(単位：件数)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成元	6	6	11	9	7	3	5	11	6	3	6	1	74
2	5	7	6	7	7	2	11	8	2	6	3	8	72
3	6	6	8	8	9	5	11	7	6	6	7	6	85
4	6	3	6	11	5	6	5	5	6	10	6	8	77
5	7	6	9	11	2	5	8	4	4	7	8	11	82
6	8	6	15	10	11	6	10	7	5	7	5	11	101
7	4	3	6	8	3	8	4	10	4	5	4	6	65
8	6	6	7	7	6	3	6	9	6	5	2	5	68
9	3	4	2	5	6	4	7	6	3	3	4	10	57
10	4	3	6	9	8	6	8	4	7	7	6	5	73
11	3	5	6	7	5	1	7	5	7	5	7	9	67
12	5	4	5	7	6	6	10	8	3	5	8	3	70
13	6	6	4	10	5	8	9	7	5	7	5	8	80
14	5	5	5	11	10	4	6	7	6	10	3	4	76
15	7	9	7	12	6	5	6	6	3	6	4	7	78
16	8	8	5	11	7	10	4	9	10	4	5	8	89
17	5	3	5	11	3	7	3	8	8	7	2	7	69
18	6	4	8	9	11	8	8	6	8	4	6	5	83
19	3	7	6	8	8	5	8	10	6	6	10	6	83
20	2	9	3	8	6	4	6	5	10	6	6	3	68
21	3	5	6	8	12	6	9	5	5	6	3	8	76
22	8	7	7	8	4	7	3	3	8	7	7	2	71
23	5	1	8	9	8	6	2	3	7	4	2	8	63
24	3	7	4	11	9	7	8	11	3	7	4	6	80
25	8	6	9	3	10	8	9	3	6	8	4	7	81
26	5	5	7	10	12	9	8	5	6	8	9	9	93
27	1	4	5	10	6	7	7	6	5	3	8	9	71
28	9	8	6	7	11	6	9	4	2	4	2	5	73
29	2	4	4	6	10	6	3	5	3	5	3	7	58
30	4	4	3	8	6	1	1	6	3	2	4	3	45
令和元	2	4	3	5	5	3	2	5	2	3	3	5	42
2	2	1	4	3	4	3	2	3	2	5	5	4	38
3	1	2	5	5	5	2	5	4	2	4	2	4	41
4	3	4	1	2	6	1	3	3	4	3	1	0	31

(9) 訓練指導件数

(単位 : 延件数)

訓練内容 \ 年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
脳血管疾患等 リハビリテーション	外来	27,185	24,658	26,036	25,509	23,640	24,006	26,659	27,773	24,217	24,578
	入院	6,477	10,696	8,316	8,105	9,294	8,277	10,615	9,283	9,512	10,756
運動器 リハビリテーション	外来	352	309	153	184	249	217	243	313	404	408
	入院	1,045	1,996	2,616	1,795	2,630	1,912	2,771	2,906	2,041	1,078
障害児(者) リハビリテーション	外来	103	56	71	72	69	90	69	83	28	53
	入院	284	906	309	4	2	0	0	0	22	12
摂食機能療法	外来										
	入院	257	204	356	296	285	250	289	319	457	521
通院精神療法	外来	11,498	9,633	12,807	13,482	14,600	14,387	14,404	16,283	17,153	18,233
通院集団精神療	外来		72	18	23	28	19	31	73	40	31
心身医学療法	外来										
てんかん指導	外来	1,089	1,298	1,180	1,156	1,174	1,013	704	18	974	1,348
小児運動器疾患指導	外来						91	37	34	135	291
小 計	外来	40,227	36,026	40,265	40,426	39,760	39,823	42,147	44,577	42,951	44,942
	入院	8,063	13,802	11,597	10,200	12,211	10,439	13,675	12,508	12,032	12,367
合 計		48,290	49,828	51,862	50,626	51,971	50,262	55,822	57,085	54,983	57,309

(10) 入所者の要介護の状況

(単位 : 人)

区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
食 事	全 介 助	7	6	2	3	3	4	8	5	4	3
	部分介助	6	3	6	1	0	2	4	1	1	2
	自 立	20	22	19	26	31	21	31	28	26	16
排 泄	全 介 助	8	8	2	4	4	4	12	5	6	5
	部分介助	9	6	7	7	3	4	2	4	2	0
	自 立	16	17	18	19	27	19	29	25	23	16
衣 服 着 脱	全 介 助	7	8	2	3	4	5	11	5	6	4
	部分介助	9	7	7	3	0	2	3	5	1	1
	自 立	17	16	18	24	30	20	29	24	24	16
保 清 入 浴	全 介 助	10	8	2	6	4	5	11	5	5	5
	部分介助	10	7	10	5	2	2	3	6	2	0
	自 立	13	16	15	19	28	20	29	23	24	16
移 動	全 介 助	6	7	3	3	4	2	11	5	5	4
	部分介助	12	2	10	3	4	5	3	2	1	1
	自 立	15	22	14	24	26	20	29	27	25	16
移 乗	全 介 助	9	15	7	5	4	2	11	7	6	4
	部分介助	8	1	5	4	5	5	3	1	0	1
	自 立	16	15	15	21	25	20	29	26	25	16
言 語	全 介 助	5	4	1	3	2	2	6	5	4	4
	部分介助	8	2	11	2	1	1	4	6	2	1
	自 立	20	25	15	25	31	24	33	23	25	16
理 解	全 介 助	5	4	3	3	3	2	6	5	4	4
	部分介助	8	2	8	2	1	1	4	1	2	1
	自 立	20	25	16	25	30	24	33	28	25	16
入 所 実 人 員		33	31	27	30	34	27	43	34	31	21

(注1) 10月1日現在の在院児

(注2) 評価法は3段階とする。

全介助：FIM(機能的自立度評価法)2~1

部分介助：FIM 5~3

自立：FIM 7~6

(注3) 「排泄」はFIMの「トイレ動作」と「排泄コントロール」を合わせる。

(注4) 母子入所児を含む。

(11) 障害児等療育支援事業(実績)

(単位:件)

事業名 年度	訪問療育相談支援事業		外来療育相談 支援事業	◎地域生活特別 支援事業	地域療育支援事業 (会議、研修、実 習、 講座)	施設への技術支 援事業(職員派遣、 見学受け入れ等)
	巡回療育相談	関係機関訪問				
H24	423	64	255	9	8	435
H25	368	72	517	7	8	335
H26	335	68	677	3	7	325
H27	300	59	459	6	9	234
H28	306	45	315	4	9	269
H29	261	55	331	7	9	290
H30	258	42	354	14	9	282
R元	222	55	261	22	9	254
R2	112	6	309	8	2	171
R3	186	21	610	20	7	133
R4	179	15	527	9	33	127

(12) 医療等従事者(有資格者)研修(実績)

職種	機関名	令和4年度	
		実人数	延日数
理学療法士	白十字 訪問看護ステーション	1	1
	長崎みなとメディカルセンター	3	3
	個人(所属無し)	1	17
作業療法士	長崎みなとメディカルセンター	1	1
	うさぎのもり	1	4
	多機能事業所カミングホームうつつがわ	1	1
	光風台病院	1	1
	白十字 訪問看護ステーション	1	1
	BLUE PLANETS	2	2
言語聴覚士	ハートセンター	1	5
	出口小児科	1	2
	佐世保中央病院	1	3
	長崎みなとメディカルセンター	2	2
	うさぎのもり	1	3
	多機能事業所カミングホームうつつがわ	1	1
	BLUE PLANETS	1	1
計		20	48

(13) 令和4年度障害児(者)巡回療育相談実施状況(一覧表)

保健所名	実施日	相談日数	相談数			判定 (一部重複判定あり)								医局		リハビリ			総務(運転)	地域連携 心理班	関係機関						訪問相談		意見交換会、研修会等						
			新	継	計	判定計	A 本人 または 家族が 必要	B 外来 治療 中	C センタ ーが 必要	D 巡回 療育 での 実施	E 巡回 療育 が 必要	F 巡回 療育 が 必要 (重 複)	G 終了	整形 Dr	小児 Dr	PT	OT	ST			保健 所	市 町	医 療 機 関	学 校・ 保 育 所 等	療 育 者 関 係	そ の 他	件 数	ス タ フ	概要	参加者	計				
			0	0	1		2	1	5	19	0	0	2																			6	0	0	1
県北保健所	R4.5.18(水)~5.19(木)	2	10	13	23	28	0	0	1	2	1	5	19			池田	喜々津	泉田	福本	○	○	○	○	○	○	0									
	R4.9.14(水)~9.15(木)	2	8	4	12	14	0	0	2	4	0	2	6			池田	喜々津	泉田	大田	○	○	○	○	○	○	0									
	R5.1.26(木)~1.27(金)	2	11	7	18	26	0	0	1	5	0	8	12			池田	喜々津	泉田	川嶋	○	○	○	○	○	○	0									
小計		3	6	29	24	53	68	0	0	4	11	1	15	37												0								0	
五島保健所	R4.5.25(水)~5.26(木)	2	0	11	11	11	1	1	0	0	7	0	2	二宮	馬場寄				赤羽	○	○	○	○	○	○	1	訪問相談 セッション PT他	五島中央病院との合同カンファレンス	保健所職員、市職員、医療機関			12			
	R4.7.13(水)~7.15(金)	3	12	8	20	20	0	0	0	6	1	0	13			岩永	鷹取	泉田	大田	○	○	○	○	○	○	0									
	R4.9.28(水)~R4.9.29(木)	2	1	4	5	5	0	0	0	0	4	0	1	岡野	馬場寄				赤羽	○	○	○	○	○	○	1	訪問相談 セッション PT他								
	R4.12.14(水)~R4.12.16(金)	3	11	6	17	17	0	0	0	3	0	0	14			岩永	鷹取	泉田	大田	○	○	○	○	○	○	0									
小計		4	10	24	29	53	53	1	1	0	9	12	0	30												2								12	
上五島保健所	R4.6.15(水)~R4.6.16(木) (16日は移動日)	2	0	4	4	4	0	0	0	0	4	0	0	岡野	前田				泉田	安野	○	○	○	○	○	0									
	R4.8.24(水)~R4.8.26(金)	3	9	4	13	14	2	0	1	2	2	1	6		井上	琴岡	嶽	泉田	福本	○	○	○	○	○	○	0									
	R4.10.27(木)~R4.10.28(金)	2	2	4	6	7	0	0	0	0	6	1	0	二宮	前田				泉田	安野	○	○	○	○	○	0									
	R5.1.18(水)~R5.1.20(金)	3	3	3	6	6	0	0	1	1	0	0	4			琴岡	濱 (旧:嶽)	泉田	大田	○	○	○	○	○	○	0									
小計		4	10	14	15	29	31	2	0	2	3	12	2	10												0									
吉岐保健所	R4.6.8(水)	1	5	0	5	6	1	0	0	2	0	1	2			池田	鶴島	泉田	川嶋	○	○	○	○	○	○	0									
	R4.8.3(水)~R4.8.4(木)	2	0	10	10	10	0	0	0	0	9	0	1	二宮	本嶋				泉田	栗田	○	○	○	○	○	○	0								
	R4.10.12(水)	1	2	3	5	5	1	0	0	0	0	0	4		長岡	阿佐美	鶴島	泉田	川嶋	○	○	○	○	○	○	0		地域療育従事者研修会「ことばとコミュニケーション」講師 鶴島st	吉岐保健所、吉岐市役所、吉岐こどもセンター、ジュニアデイ職員			9			
	R4.12.1(木)~R4.12.2(金)	2	0	8	8	8	0	0	0	0	7	0	1	岡野	本嶋				泉田	栗田	○	○	○	○	○	○	0								
小計		4	6	7	21	28	29	2	0	0	2	16	1	8												0								9	
対馬保健所	R4.6.28(火)~R4.6.29(水)	2	4	3	7	11	2	0	0	0	1	3	5		町	山縣	藤田	泉田	中村	○	○	○	○	○	○	0		講和「感覚統合について」身体を鍛えるトレーニング等紹介：対馬市立鶏知保育所内	保育士、巡回スタッフ			20			
	R4.11.17(木)~R4.11.18(金)	2	2	2	4	5	0	0	0	2	2	1	0		町	山縣	藤田	泉田	中村	○	○	○	○	○	○	0									
	R5.2.2(木)~R5.2.3(金)	2	0	5	5	5	0	0	0	0	4	0	1	二宮	毎熊				泉田	赤羽	○	○	○	○	○	○	0								
	*9/1~9/2はコロナ流行				0	0																					0								
小計		3	6	6	10	16	21	2	0	0	2	7	4	6												0								20	
令和4年度 実績数		38	80	99	179	202	7	0	6	27	48	22	91													2								41	
令和3年度 実績数		41	74	112	186	206	0	0	0	14	69	20	68													1								26	
令和2年度 実績数		20	40	72	112	129	0	0	21	9	46	18	35													0								179	
令和元年度 実績数		40	84	138	222	250	4	0	27	45	66	28	80													1								157	
平成30年度 実績数		50	92	166	258	270	6	0	24	44	108	12	76													1								61	